＊＊　私たちの住む金田村の記憶　＊＊　（２０２２．６）

個人の生活　（その３）　＜ 入野　Ｕさん ＞

少林寺

　格式があり、大きな、いい寺だった。寺の外には堀があり、そこに、草履を投げ込むと罪を逃れられると言われていた。

　小学校があった。地震によって学校はつぶれ、近くの寺に分散して勉強した。

　戦争中、川崎からの集団疎開があり、空襲の時には居なかった。子どもたちは、寺に寝泊りして、風呂は農家に入りにきた。風呂にきて、シラミを残して帰った。

　役場があった。一時、現在の駐在所あたりに移ったが、狭くなって、戻ってきた。

　鈴川と古川排水路の合流点に「馬捨て場」があった。

　成願寺の脇に、小さな川があり、鈴川に流れていた。水がきれいで、蛍が多く、しじみをたくさん撮ることができた。かつての金目川といわれていた。

　道祖神は、今井隆さん宅の前にあり、大クスの木と道標になる石碑があった。石碑は、移され、福田寺に置かれている。
　大クスの木は、戦争で焼かれ、危ないので切られた。

　金目川の水神橋わきの水神さんは、終戦後、江原タケオさんが立てた。

八坂神社のまつり

　神輿は、天王道を通り、水神橋を渡り、金目川に下りて、「浜おり祭」のように禊を行った。天王道には「のぼり」が７本立てられた。天王道は、曲がりくねり、今の倍くらいの長さだった。

　金目川の向こうは、２軒のみ。原さんは、関東地震のとき今の場所に越した。

　金目川の水神橋脇に祀られている水神さんは、戦後祀られた。

古川は、耕地整理のときに改修された。高等小学校のときに、小学生が土運びなど手伝い、その稼ぎで高等科１，２年生が日光へ１泊の旅行をした。

掘りぬき井戸は、寺田縄の方々に有った。入野には無かった。

入野の耕地整理は　昭和になってからのことだった。

関東地震（大正１２年9月１日）　９歳ぐらいの時だった。

昼食中、大きな揺れで、家族７人が草家（かやぶきの家）に閉じ込められた。父は屋根を破いて、先に外に出て、屋根をむしりとって、引き釣りだしてくれた。

壊れた家には寝泊りができず、近くの藪の中に枝を敷き、その上に「こも」をのせ、一時しのぎとした。

朝鮮人騒動があり、「火の見やぐらの鐘」が鳴り、町内会長は日本刀を持ち警戒にあった。（ほんとうは、朝鮮人は何もやっていなかった）

金目川、鈴川の土手という土手は全部平らになり、天王道も平らになり、道がなくなった。田島（畑の中の盛り土）も平らになった。修復には、朝鮮人が当たり、色氏橋近くのテント２張りに住んでいた。

土手がなくなって雨が降ったら、洪水になる。雨が降らなかったのは幸いだった。修復に地元の人は参加していない。

朝鮮人と地元民とのトラブルはなかったようだ。

寺田縄にはたくさんの堀貫井戸があったが、地震で水が止まった。一方、水が出たところもある。

人が落ち込むような大きな地割れはなかった。

金目川の桜

おきや（茶店）が何軒も出た。東海道線には、臨時列車が出るくらい賑わった。入野付近は、土手が三列あり、桜の木も多く実にきれいだった。仕事中も、花見に出かけた。今、ああいう花見は、日本中どこにもない。

花見には、親戚だけでなく他人も誘い大勢できた。一日ならいいが、泊りできた。賄いで家内も大変だった。

洪　水（昭和１３年）

金旭中のところの土手が切れた。昭和１０年の洪水のときだった。
土手には松が植えられ、映画のロケーションがあった。「次郎物語」の撮影もあった。

金目の「御所堤」と金田の「おおまがり」が同時に切れ、水が流れ出た。
金田地区の金目川には、水がない状態だった。
洪水の水で浸水した岡崎方面は、水に埋まり真っ白に見えた。

洪水の流れは、入野にはすぐに来なかったが、水がじわじわと襲ってきた。水がどこまで来るか不安だった。流されないようにロープを使って、移動した。
入野の川崎まちの低いところには、風呂桶が流れてきた。
牛を色氏橋につないだ。

洪水の後、家の中のヘドロをかき出すのが、大変だった。一日では終わらず。ヘドロ出しは何日も続いた。

鈴川と渋田川、相模川が切れた時には、伊勢原道は船で行き来した。堤防が決壊し、入野が、バスの迂回路となった。不思議なことに、土手が切れた時の水は上に流れる。

水　車

水車は、長持にあった下の車（しものくるま）と新車の二基だった。
下の車は、成願寺脇の流れを使い動いていた。玉川（渋田川）の中原橋付近に、シングルマと呼ばれる水車があった。鈴川にくいを打ち、水止め作り、水を引き水車を回した。

水車では、米、粉をひき、料金を支払った。

地域の様子

公民館と１５分団庁舎の間に川があり、その上に「ごはんばし」がかかり、仏像があった。仏教の「ごはんさん（？）」を祀り、かつて、行き倒れだったか、ここで死人がでた。地蔵さんを祀り、通りを「地蔵道」と呼ばれた。

入野の八坂神社の近くには池があり、釣りができた。古い金目川が曲っていた所といわれた。

鈴川と玉川の合流点に、火葬場があり、鉄の組み物があった。集落から離れ、付近には家なく草むらだった。

今の駐在裏に、医者の常駐してない「ヒビョウイン」（避病院）があった。伝染病の病院だった。南向きで入り口は東にあった。

金目川はオオマガリから流れていた。古い金目川だ。

陸軍の大演習で行幸の時、迎えるために児童は、道路端にならばされ、礼の練習を続けさせられた。

明治時代、　入野に大火があり鈴川を渡った飛び火は、対岸の豊田の平等寺まで焼けた。

桑畑、養蚕

桑畑は、入野の、自宅付近にあった。鈴川を越えて玉川（渋田川）までは、入野の畑で、桑畑が多かった。

養蚕は、年３回で春に１回と秋の２回行った。まゆの仲買人が買い付けに来ていた。入野には組合が２ヶ所あった。買い集められたまゆは、製糸工場に運ばれた。悪いまゆは売りに出さず自家使用し、機織機を使って布にした。機械は、空襲で焼けてしまい今はない。

養蚕が始まると、家の人は居候同然、住んでいるのはカイコ、人間は隅っこに居ることになった。

飯島堰

飯島堰は、金目川の砂利を使いつくられた。地元の人は砂利運びをした。完成後、下流の古い堰は使われなくなった。

遊び

金田の他の集落とは、喧嘩など無かった。鈴川をはさんで、豊田とは喧嘩をした。

金田の道路

カギの手になっている道路は、攻撃、防御を考えた戦略上の道路といわれていた。角に道祖神と大きな欅の木があった。道祖神は福田寺に移され、祀られている。

長持に「控え土手」があった。

軍　隊

東京へ軍隊として出兵した。東京の武道館付近には田んぼがあった。給料は５円５０銭　除隊の時には２０円もらい実印をつくった。２２６事件も知っている。

１６年にはベトナムにも行った。勝ち戦だったからか待遇はよかった。

２度目の招集は近衛師団だった。３度目は「辻堂」だった。殺し合いを知っているので心苦しく、嫌だった。

平塚大空襲

藤沢からトラックに便乗して帰宅する途中、馬入橋から大磯が見えるくらい焼野原だった。帰りついても、家は燃え、まだ火も残り、寝る所もなかった。

焼け落ちて何も無いまちに帰って来た。

＜　以　上　＞